

(111)

富田敬子



「実るほど頭を垂れる稲穂かな」
こうべ

稲穂が黄金色に輝く季節になると、母から教わったこのことばを思い出します。稲が成長すると実を付け、その重みで実の部分が垂れ下がつてくるように、成功者ほど謙虚であれとの例えです。当時、ひたすら仕事に邁進していた私への、母からの戒めだったのかもしれません。人生の折々に、自分自身に言い聞かせています。